

第25期日本学術会議  
健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会  
(第2回)  
議事録

1. 日時：令和3年2月3日（水）13：00～15：00
2. 場所：ビデオ会議
3. 出席（敬称略五十音順）：荒井秀典，秋下雅弘，飯島勝矢，伊香賀俊治，太田喜久子，  
須田木綿子，住居広士，田高悦子，玉腰暁子，野口定久，安村誠司，吉野博  
日本学術会議事務局（畔上）

4. 議題

- 1) 前回（第1回：R2年12月17日付）議事録案について  
承認された。

2) 今期の活動計画について

(1) テーマについて

下記（委員長案）と仮称し、引き続き検討することとなった。

：高齢者の健康・生活の視点から新型コロナウイルス感染症対策に求められる学術の役割  
と発揮（仮）

(2) 計画について

・上記のテーマに向けた課題（注：学際的なアプローチが必要になる課題）について、  
各部会（第1部～3部）、各委員から、順次、話題提供を行い、議論することになった。

・第1回目話題提供（2021年4月中旬～下旬を予定）については、第2部2-1（臨床医学系）が担当することになった。

各部会と委員構成 下線：部会長（敬称略）

第1部（社会学系）：須田、野口、住居

第2部2-1（臨床医学系）：荒井、秋下、飯島・・・第1回目話題提供（2021年4月）

第2部2-2（健康・生活科学系）：太田、玉腰、安村、田高

第3部（土木工学・建築学系）：伊香賀、吉野

2021年度タイムスケジュール（案）

4月：第2部2-1（臨床医学系）話題提供

6月：第1部（社会学系）話題提供

8月：第2部2-2（健康・生活科学系）話題提供

10月：第3部（土木工学・建築学系）話題提供

12月：中間総括

### (3) 今後の進め方等について

以下の意見（抜粋）があった。

- ・各委員の専門分野等に基づく部会（第1部～3部）の議論では立場が近く、新鮮味もなく、学際的な議論に発展しにくいのではないかと。
- ・各部会ごとに議論をまとめるのではなく、各委員から多様なトピックスを発出することによって、各部会や本分科会としての学際的な議論が広がるのではないかと。
- ・各部会の専門分野の相互理解を深めて本分科会の提言（仮）をつくるためには、各部会各委員から話題提供を行うとともに他部会への投げかけ（問い）を提示してはどうか
- ・withコロナか、postコロナか？提言時、感染症法上、インフルエンザと同様の扱いになる可能性もあるとすると“新型コロナウイルス感染症対策”として発出する意味がどの程度あるか。
- ・新型コロナウイルス感染症は収束しても終息するということは考えにくいいため、感染症対策を広く捉えた提言を目指してはどうか。
- ・新型コロナウイルス感染症はおおよそあらゆる他の分科会のテーマ、キーワードでもあるので、それらとの連携、協働することも一案では。
- ・新型コロナウイルス感染症は今期のおおよそあらゆる分科会に関わるので本分科会としての焦点化が必要では？
- ・学際性や学際的なアプローチの重要性は、本分科会の設置の趣旨でもあったので、本提言において学際性が重要である、という結論を導くのはいかなるものか。
- ・どのような課題にどのような学際的なアプローチが必要かについて明確にすることが必要なのか？
- ・本テーマに限らず、分科会がこれまでに発出した提言等を確認し、その評価を行うことも一案ではないか。
- ・2021年12月末の総括の完成形としてどのようなものを目指すかについて、イメージの共有がまず、必要ではないか。

### 3) 次回について

日程：2021年4月（別途日程調整、オンライン予定）

議題：今期のテーマについて、第2部2-1（臨床医学系）の話題提供について、他

以上